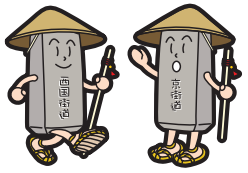
京街道・西国街道

しるべくん

街道を楽しく、元気良く、歩くことをイメージした「しるべくん」です。



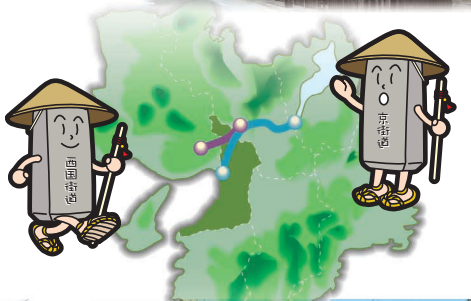
表紙上部写真：郡山宿「本陣」、枚方宿「鍵屋」

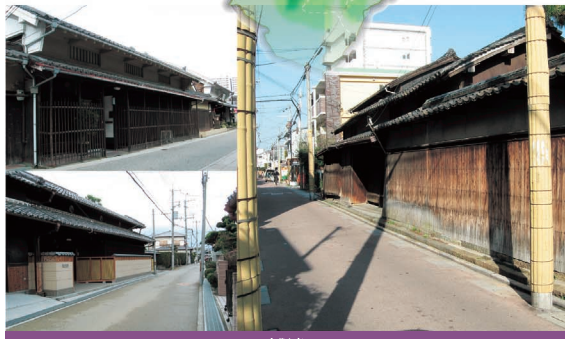
お問い合わせは

■大阪府 都市整備部交通道路室
道路整備課交通計画グループ　TEL.06-6944-9275

（2008.2）

R100 PRINTED WITH SOY INK™ 環境に配慮し、古紙配合率100%の再生紙及び大豆インキを使用しています。





大阪府

大阪から京都へつながる京街道をたどり滋賀へ

守口、枚方、淀、伏見の4宿を経て大津へ

大坂から京都を結んだ京街道

大坂と伏見に城を築いた豊臣秀吉は、文禄5年（1596）、2つの城を最短距離で結ぶため淀川沿いに文禄堤を整備し、この堤の道が京街道となりました。その後、天下統一を果たした徳川家康が、天下の台所である大坂への道である京街道をさらに発展させるため、守口宿、枚方宿、淀宿、伏見宿の四カ所に宿駅を設けました。それぞれの宿場には、大名の宿泊所である本陣、家臣や旅人のための旅籠、宿場の役所である問屋場などが整備されました。これらの四宿は、淀川の舟運によって人やモノの往来が盛んに行われ、水路、陸路ともににぎわいました。

京街道の道標

この京街道の四次と、徳川幕府が江戸から京都までをつないだ東海道五十三次を合わせて、江戸と大坂を結ぶ東海道五十七次とよばれています。

楠葉にある京街道の道標

秀吉の築いた文禄堤が残る守口宿

守口宿

街道の起点である高麗橋から出発して最初の宿場となる守口宿（東海道五十七次）。京阪電車守口市駅前には、市街地より約10mほど高くなった場所があり、これが文禄堤の名残です。虫籠（むしご）窓やうだつをあげた古い家並みが残っており、宿場の面影を感じさせます。

宿駅と淀川舟運で発展した枚方宿

枚方宿（東海道五十六次）の規模の大きさは、京街道（東海道）のなかでも屈指で、西の見附から東の見附までは約1.5kmに及びます。淀川を進む三十石舟の乗客に対して「餅くらわんか、酒くらわんか」と売りつけにきた小舟は「くらわんか舟」と呼ばれ、この辺りで発展しました。「三味や太鼓で船停める」と船頭歌にも歌われた、代表的な船宿である「鍵屋」は現在は資料館となっており、街道の歴史を今に伝えています。

枚方宿の道標

枚方宿『鍵屋』

港町として栄えた三川合流地、淀宿

淀宿（東海道五十五次）は、規模の大きな枚方宿と伏見宿に挟まれていたためか、宿場町としては比較的小規模で、本陣や脇本陣はなく、旅籠が16軒あったのみとされています。また、この地は桂川、宇治川、木津川の三川が合流し淀川へと注ぎ込む「三川合流の地」であり、淀船の寄港地としても栄えました。

淀小橋趾

與杼神社

人と物資が集う水陸交通の要、伏見宿

両替商・山本邸

伏見城の城下町として発展した伏見宿（東海道五十四次）は、本陣4軒、脇本陣2軒、旅籠39軒を備えてにぎわいを見せていました。参勤交代の大名たちは、洛中を通ることを許されなかったため、街道はここから山科を抜けて追分を通り、大津へと向かいました。

街道マップのご利用方法

このマップは街道の歴史や見どころを知り、街道散策をより楽しんでいただくための推奨ルートです。街道沿いにある史跡や名勝のほか、休憩所やトイレなど散策中に役立つ情報も盛り込まれています。分岐点など分かりにくいポイントには詳細図もついているので、ぜひマップを片手に実際に歩いてみてください。

※ルートは、「歴史の道調査報告書」（大阪府教育委員会）などを参考に設定していますが、古道を限定、特定するものではありません。

※各ページで紹介している歩行距離や標準歩行時間、標準所要時間および電鉄情報は目安です。

マナーを守って楽しい散策を

みんなが気持ちよく散策を楽しめるように、マナーを守り人の迷惑になる行為は慎みましょう。

- ●ゴミは必ず持ち帰りましょう。
- ●喫煙マナーを守り歩きタバコはやめましょう。
- ●史跡や自然を傷つけないようにしましょう。
- ●神社仏閣などでは静かに見学しましょう。
- ●体調に配慮し無理のない範囲で歩きましょう。

このパンフレットは3000部作成し、1部あたりの単価は199円です。